◆リハビリテーション室　　室　長　五十嵐稔浩

2014年度リハビリテーション室（以下リハ室）は、「進化～Evolution～」をスローガンとした。しかし、2014年度の診療報酬の改訂、地域包括ケア病床（病棟）の新設、2015年度の介護報酬の改定などリハビリテーションを取り巻く環境は逆風ともとれる変化を迎えようとしている。

また、熊本県下においては85歳以上の高齢者のリハビリテーションが抑制されている。当院周辺地域の高齢化率はますます進行しており、リハ室においても厳しい運営が余儀なくされた。

【リハビリテーション実施体制】

専任医６名、セラピスト39名（理学療法士17名・作業療法士17名・言語聴覚士５名）

（施設基準など）

脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ（以下脳リハ）、運動器リハビリテーション料Ⅰ（以下運動リハ）、呼吸器リハビリテーション料Ⅰ（以下呼吸リハ）、がん患者リハビリテーション料（以下がんリハ）、訪問リハビリテーション事業所（以下訪問リハ事業所）、宇城地域リハビリテーション広域支援センター（以下広域リハ）

【在宅復帰支援機能】

１．入院・外来リハビリテーション

１）2014年度リハビリ依頼状況

リハビリ依頼件数は、入院疾患別リハ等711件、摂食機能療法75件、外来リハビリ78件の計864件であった（表-1）。

（依頼件数の変化）

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
入院疾患別リハ	650	685	701	711
摂食機能療法	47	82	89	75
外来リハ	42	62	71	78

（表-１）

２）患者属性

①入院疾患別リハビリテーションなど

依頼件数711件（男性318件・女性393件）。平均年齢80.4歳（男性78.0歳・女性81.9歳）。疾患別リハビリなど分類は、運動リハ275件、脳リハ廃用142件、脳リハ167件、呼吸リハ81件、がんリハ43件、消炎３件であった。（表-2）

入院疾患別リハなど分類

	運　動	脳廃用	脳	呼　吸	が　ん	消　炎
2014年度	275	142	167	81	43	3
2013年度	256	209	155	54	25	2
2012年度	250	201	166	58	10	0

（表-２）

②摂食機能療法（以下摂食療法）

依頼件数75件（男性49件・女性26件）。平均年齢84.6歳（男性83.5歳・女性86.9歳）であった。

＊言語聴覚療法部門にて対応。

③外来リハビリテーション（以下外来リハ）

依頼件数77件（男性34名・女性43名）。平均年齢70.0歳（男性68.8歳・女性70.9歳）。件であった。

外来疾患別リハなど分類

	運　動	脳	呼　吸	心理検査	消　炎
2014年度	68	5	0	1	3
2013年度	66	1	1	2	1
2012年度	55	0	4	2	1

（表-３）

３）アウトカム評価（在宅復帰率とＦＩＭ利得）

リハビリテーション診療の効果検証の一助として、2014年度にリハビリテーションを受けて退院した患者704名（男性323名・女性381名）、平均年齢79.1歳（男性76.9歳・女性80.9歳）の在宅復帰率およびＦＩＭ利得について調査した。

①リハ対象者全体の在宅復帰率（表-4）

・在宅復帰率

退院者704名（男性323名・女性381）、平均年齢79.1歳（男性76.9歳・女性80.9歳）

リハ対象者全体の在宅復帰率

復帰先	自　宅	居宅施設	老健施設	病　院	死　亡	合　計
全　体	484	71	32	79	38	704
割合(%)	69	10	5	11	5	100

（表-４）

②病棟（病床）別在宅復帰率（表-6）とFIM利得（表-7）

・在宅復帰率

一　般　病　床；退院者187名(男性112名・女性75名)
平均年齢80.8歳

地域包括ケア病床；退院者271名(男性119名・女性152名)
平均年齢78.6歳

回復期リハビリ病棟；退院者246名(男性92名・女性154名)
平均年齢78.3歳

病棟（床）別在宅復帰率

	自宅	居宅施設	老健施設	病院	死　亡	合　計
一　般	91	14	7	45	30	187
	48.7%	7.5%	3.7%	24.1%	16.0%	100.0%
地域包括ケア	208	32	6	18	7	271
	76.8%	11.8%	2.2%	6.6%	2.6%	100.0%
回復期リハビリ	185	25	19	16	1	246
	75.2%	10.2%	7.7%	6.5%	0.4%	100.0%

（表-６）

③FIM利得（データ欠損24名を除く
＊一般19名　地域包括ケア５名　回復期リハビリ０名）

病棟（床）別FIM利得

	入院(床･棟)ＦＩＭ	退院時ＦＩＭ	ＦＩＭ利得
一　般	51.6	63.2	11.6
地域包括ケア	80.4	92.2	11.8
回復期リハビリ	67.6	95.3	27.7

（表-７）

*地域包括ケア・回復期は病棟（床）への入棟（床）時とのFIM利得

【在宅生活継続支援機能】

１．訪問リハビリテーション

１）訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）の依頼状況（表-8）・実施状況（表-9）と利用者属性

訪問リハ依頼件数の変化

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
訪　問	30	29	44	60

（表-８）

訪問リハ実施件数の推移

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
件　数	913	1,002	1,550	2,815

（表-９）

２）訪問リハビリテーション提供体制（表－10）

	ＯＴ	ＰＴ	ＳＴ	合計
2012年度	兼務1名 (0.5)	兼務2名 (1.0)	0	1.50
2013年度	兼務2名 (1.0)	兼務1名 (0.5)	兼務1名 (0.25)	1.75
2014年度	専従1名＋兼務2名(2.0)	兼務2名 (1.0)	兼務1名 (0.25)	3.25

（表-10）

2014年度の依頼件数は60件（男性31名・女性29名）。平均年齢81.1歳（男性80.8歳・女性81.3歳）であった。2014年度の訪問リハビリの実施件数は2,815件であり、過去３年でその実施件数は約３倍になっている。地域包括ケアシステムの推進や入院期間の短縮など今後当院周辺地域における訪問リハのニーズは更に大きくなると予測できる。今後もスタッフの配置など訪問リハビリテーション提供体制を強化、拡大し地域のニーズに応えていきたい。

２．介護予防事業（2015年度より日常生活総合支援事業）

介護予防事業は一般高齢者および虚弱高齢者が要介護および要支援状態に陥らないように宇城市より委託を受け行っている予防リハビリテーションである。2013年度より３ヵ月×４期の通年化へ移行し、行政機関、宇城市地域包括支援センター、ボランティアなどとの連携を図りながら事業の強化拡大を行った。2014年度の参加者は、延べ参加者455名（登録者数53名）、男性59名（登録者数９名）、女性396名（登録者数44名）、平均年齢76.9歳であった。

教室では主に自宅でできる筋力訓練やストレッチを実施し、更にボランティアの協力のもとレクレーションを取り入れ、和やかな雰囲気で楽しく出来る様に工夫している。宇城市においては2015年度より介護保険による介護予防サービスを日常生活総合支援事業へ移行する計画があり、当院はその事業委託を受けている。これは今後更に推進される地域包括ケアシステムにおいて重要な事業であると考えている。地域住民の健康を守る予防リハビリテーションの観点より事業強化に努めたい。

３．宇城地域リハビリテーション広域支援センター
（熊本県委託・指定業務）

熊本県より宇城地域リハ広域支援センターの指定を受け３年が経過した。地域リハビリテーション啓発活動を主として地域の介護保険事業所への支援授業を中心に実施している。

①宇城地域リハビリテーション研修会開催（２回）
　１回目）テーマ；転倒しない体つくり
　　～原因から対策まで～
　２回目）テーマ；認知症に対するケアとリハビリテーション
②地域リハビリテーション連絡会・情報交換会開催（３回）
③介護予防事業所など出張相談事業（講師派遣など含む）
　：年間13件実施　など
④その他地域ケアカンファレンスなどへの参画

（今後の課題　～2015年度に向けて～）

急速にすすむ高齢化と人口の減少。2015年度の介護報酬改定。高齢者に対するリハビリテーション医療の変遷・・・。近年リハビリテーション医療および福祉においては大きな変革の時期を迎えていると言える。国は地域包括ケアシステムの構築を推進しており、今後さらに医療機関におけるリハビリテーション介入機関の短縮化が予測される。当院が存在する三角町には熊本市のような大都市とは違い十分な介護保険サービスを提供できるだけの施設が少ない。また、地域で支え合えるような「地域力」も高齢化の中疲弊している。

リハビリテーション室においては、当院の理念である「医療・福祉を通じて地域住民が安心して生活できる地域創りに貢献します。」を実現するため、入院リハビリテーションを中心とした在宅復帰支援はもとより、地域住民が住み慣れた地域で生活を継続することのできる支援を行うことのできる環境整備に注力していかなければならない。